



富士市出身で、2002年度「ミス日本」グランプリを受賞した

## 佐野 公美さん



**こ**とし一月に行われた「二〇〇二年度ミス日本グランプリ決定コンテスト」。佐野さんは応募者二千人以上の中から見事グランプリの栄冠を手に入れました。

市立広見小学校を卒業後、裾野市にある私立の中学・高校へ。家族の支えを受け、富士市の自宅から通学しました。そして聖心女子大学の歴史社会学科へ進学。フランス文化を学び、三年生のとき半年間、フランス留学を経験しました。卒業後の現在は、ミス日本として、作法やパフォーマンクスを学びながら、各種イベントへの参加のほか、福祉施設慰問などのボランティア活動に多忙な毎日を送っています。

佐野さんは、「コンテストには、大学四年生の昨年、母と妹が応募しました。最終審査で自分の名前が呼ばれたときは、驚きと信じられない思いでいっぱいでした。ミス日本になり公の場で話をする機会がふえ、いつも緊張の連続です

が、きちんと自分の考えを伝えられるように意識するようになりました。新しい場所や人、出来事との出会いが楽しい毎日です。

富士市で一番印象に残っているのは美しい富士山の情景。人も穏やかで優しい街だと思えます。恵まれた自然の中で文化が開く街になってほしいですね。今後は、表現の幅を広げ、ニュースキャスターやレポーターといった職業につきたいと思っています。生まれ育ったふるさとのために、何かお手伝いできることがあれば協力したいですね」と輝く笑顔で語ってくれました。



▲5月21日に市長を表敬訪問。市長は佐野さんの今後の活躍に期待を寄せました。

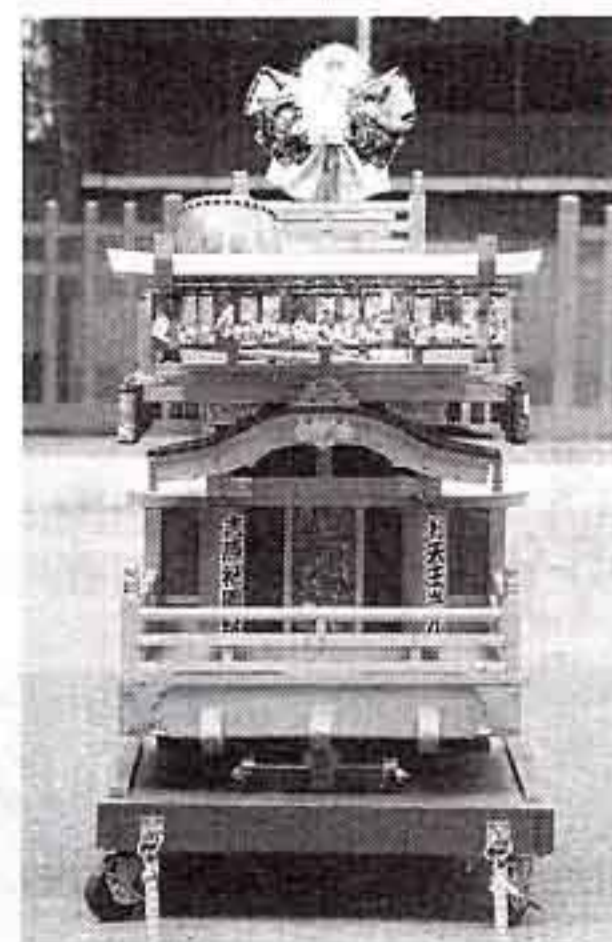


▲祭りに向けて練習に励む宮町の皆さん

毎年六月第二土・日曜日に行われる吉原祇園祭。ことしのお祭りには、二十町内の勇壮な山車にまじってミニチュアの山車が初登場します。

このミニチュア山車は、祇園祭の山車づくりや補修も手がけているベテラン大工の加藤雅彦さん（吉原三丁目）が制作しました。高さは約九十センチメートルで、ヒノキやケヤキを材料にしています。

加藤さんみずから図面を引き、二か月ほどで完成させました。ミニチュアと言っても、つくり方はほとんど本物と一緒に。滑車を使って台座を上下させたり、ちようちんなどの細工に手をかけたり



吉原祇園祭にミニチュアの山車がお目見え

ズームアップ

ふじ



するなどのこだわりようです。加藤さんが属する宮町の山車がモデルになっていて、その特徴である歌舞伎の連獅子人形が、てっぺんに乗っています。

加藤さんは、「この山車をつくらうと思ったきっかけは、昨年十月に歩き始めた孫の佑真くんを、祇園祭に参加させてあげたいと思ったことから。細かい作業に苦労するだけ本物をつくるより小さな物をつくるほうが大変かな。でも、ミニチュアづくりは道楽だよ」と笑顔がこぼれます。

目下、二台目のミニチュア山車を制作中。夢は、「ミニチュア山車がいくつかできて、小さな子どもたちもお祭りに参加し、引き回すことかな。親やおじいちゃんおばあちゃんを取り囲み、ますます祭りがにぎやかになるよね」と話してくれました。